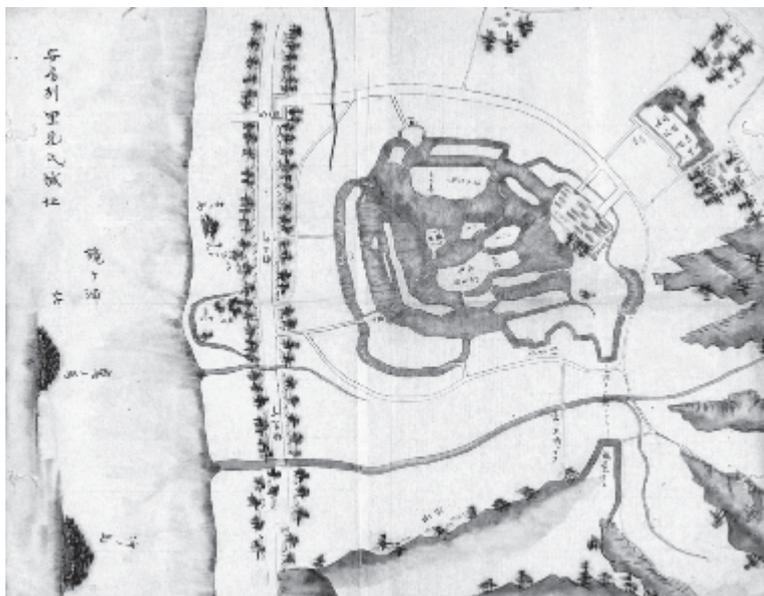


館山城跡絵図を初確認

現在、市立博物館本館と館山城(八犬伝博物館)が建つ城山公園は、里見義康と忠義の2代が居城とした館山城の城跡です。房総里見氏の最後の居城である館山城は、慶長19年(1614)に里見忠義が安房国(千葉県南部)の領地を没収された際に破壊されました。使用当時の様子を伝える文献や絵図は残っており、また、昭和初期の軍事施設化などにより地形も改変されていることから、里見氏時代の状況についてはよく分かっていません。

そのようななか、兵庫県立歴史博物館の所蔵資料に、江戸時代の館山城跡を描いた絵図があることが新たに分かりました。令和5年、同館からの情報提供を



兵庫県立歴史博物館(喜田文庫)所蔵

元に、中央大学政策文化総合研究所の共同研究「地域社会の持続と歴史的資源の保存・活用」(代表者:中央大学文学部・宮間純一教授)が調査を実施し、当館職員も参加しました。絵図には、城山の南東(画面右上)に館山藩稲葉氏の陣屋が描かれており、このことから陣屋が存在した寛政3年(1719)〜明治4年(1871)の間に描かれたものと考えられます。

絵図は西に鏡ヶ浦(館山湾)と海上に浮かぶ沖ノ島・鷹ノ島を描き、海岸沿いには館山城下の町並みを確認できます。中央には城山が描かれ、頂上付近にある「セケン」と記された赤い社は、現在、山頂にある浅間社です。この場所は現在、天守閣様式の博物館「館山城」が建つ広い平場になっていますが、昭和20年(1935)頃に砲台を設置するため、約7m削平されたことが知られており、絵図ではそれ以前の規模をうかがうことができます。その一段低い曲輪は現在、茶室や花壇がある場所で、「千畳敷」との地名が伝承されています。この場所には「本丸」と記されており、江戸時代後期の時点で本丸跡と認識されていたことが分かります。また、絵図の北東には大通りに面した部分に石垣のような構造物が描かれ、「陳(陣)ヤ入口」と記されています。作製当時は館山藩陣屋への入口として使用されていたようですが、里見氏時代の大手門の痕跡を残すものと考えられるかもしれません。

このように、今回確認された絵図は、廃城から200年後のものではありませんが、昭和初期の軍事施設化や戦後の公園利用によって、地形が改変される以前の曲輪の位置や広さが描かれており、従来の言い伝えや発掘成果の裏付けとなる貴重な発見と言えます。市立博物館本館では、こちらの絵図の写真を常設展示していますので、ぜひご覧ください。(宮坂)

令和6年度の事業から

没後100年記念企画展 「資生堂創業者 福原有信と館山」

協賛

(株)資生堂

(株)福原コーポレーション

朝日生命保険相互会社



世界的な企業である資生堂の創業者が館山市出身の人物ということをご存じでしょうか？
創業者の福原有信（1848～1924）は、嘉永元年（1848）に安房国安房郡松岡村（現館山市竜岡）に生まれました。成長後は江戸で医学を学び、幕府医学所や海軍病院などに勤務し、薬学を専門としました。こうした経験をもとに、有信は西洋で行われていた医薬分業の実践と、薬品の品質向上を志し、明治5年（1872）に資生堂を創業しました。また、帝国生命保険会社（現朝日生命保険）や大日本製薬会

社の創立にも関わりました。有信は青年時代に故郷の松岡を離れましたが、その後も安房地域と交流を重ねています。長女は館山病院を創業した川名博夫と結婚しています。また、安房地域最初の銀行である安房銀行の創業にも関わっています。出身地の松岡八幡宮には明治44年（1911）に鳥居を奉納しており、現在も建つ鳥居に有信の名が刻まれています。松岡地区では現在も、創業者の出身地という縁により交流が続いています。

今回の企画展では、福原有信が創業した企業にご協賛いただき、第1部では彼の業績と故郷との関わり、第2部では現在の資生堂に息づく創業者の精神としいについて紹介しました。会場には多くの方にご来館いただき、興味の高さがうかがえました。資生堂創業者が館山市出身であることを、多くの市民や来訪者の皆さんに知っていただけたと思います。また、会期中には関連事業として展示担当者によるギャラリートーク（全4回）と、資生堂ジャパン株式会社の講師による「高校生のため4回」を開催しました。

企画展では、展示資料の多くを資生堂企業資料館（静岡県掛川市）よりお借りし、展示企画にご担当いただきました。ふだんの当館の展示風景とはだいぶ雰囲気が異なっていたため、驚かれた方も多かったのではないのでしょうか。創業者を通じた、企業博物館と地域博物館のコラボという点でも、当館にとっては新たな試みとなりました。（宮坂）

収蔵資料展

「ちよっと昔の 暮らしの道具」

収蔵資料展は常設展や企画展でとりあげることが少ない収蔵資料を紹介する展示です。当館は地域の方々のご協力により多くの資料を収集し収蔵してきました。その多くが「ちよっと昔の暮らしの道具」です。今回は炭火アイロン、氷式冷蔵庫、黒電話などいつものまにか使われなくなり博物館へやってきた道具たちにスポットをあてて展示を開催しました。

展示室では、さまざまな世代の方が使ったことのある道具の話題で盛り上がりつつありました。また、学校の見学後に家族や友人と再び来館してくれる子どもも多く、博物館を楽しんで学校やお家で話題にしてくれているようでした。

特に道具を手に取って体験できるコーナーは人気があり、ダイヤル式の赤電話の前にはたびたび人だかりができました。小学生にとってダイヤル式の電話は見知らぬ道具です。使い方がわからない子も多いようでしたので、使っている様子を撮影したショート動画を作りました。その一方で、大人は素通りしてから展示物であることに気が付いて驚いていました。

うつりかわる暮らしの道具を見て、触れて、思い出や感想を語り合った本展示は、身近なものから歴史への関心と理解を深める機会になりました。

（山村）



寄付資料一覧 ーご協力に感謝しますー

寄贈資料名	寄贈者(敬称略)
靴屋呉服店写真、資料、書画類 他	館山市 保科映子
絵はがき「館山三景二勝」、千葉県宝くじ	佐倉市 井原重之
川名・根岸両組伊勢講仲間文書(木箱入)他	館山市 和泉澤和子
『講談「南総里見八犬伝」』他	南房総市 南房総三龍亭
半纏、脇差、写真	館山市 石井清・唆才
白土入りクレンザー	東京都 福島宜慶
瑤川哲朗関係資料(台本・パンフレット他)	館山市 田邊正明
中原淳一関係資料(人形他)	館山市 個人
岩崎巴人画幅(ナマズ)	流山市 渡邊一朗
岩崎巴人画色紙	柏市 長瀬千恵子
那古町歴代町長肖像写真、額	館山市 那古地区公民館
たも	館山市 碓井弘美
通い徳利(安馬谷・釜屋)	館山市 笹子三喜男
岩崎巴人画(金魚)	東京都 山下芳弘・浩美
猿田彦装束	館山市 高皇産霊神社
NTTドコモポケットベル	館山市 宮坂新
寛永通宝、万延二朱判金他	館山市 佐藤靖子
花の館山/渚のボサロックリーフレット	館山市 青木悦子
木更津・千倉間電化完成10周年記念入場券	館山市 三幣知義
手ぬぐい・たすき	館山市 山杉博子
手ぬぐい(房州よいとこ・安房節)	安房郡鋸南町 小藤田顕也
手ぬぐい(館山地区合同地区百年祭)	館山市 内堀哲也
組紐制作道具 丸台、玉、組紐	館山市 菌部昭夫
タブネ(田舟)	館山市 池田一男
館山市役所退職記念テレホンカード	館山市 船水裕康
ハコメガネ	富津市 渡邊豊
ポスター複写資料他	館山市 櫻井秀裕
火縄銃、刀	館山市 平嶋裕
平島家文書、写真	館山市 平島照枝
館山市航空写真	館山市 個人

ピックアップ八犬伝

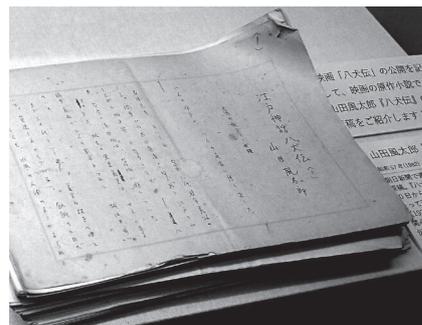
八犬伝のメディア展開

山田風太郎の小説『八犬伝』は、昭和57年(1982)に朝日新聞夕刊で連載され、翌年に出版されました。当館では、その直筆原稿を所蔵・展示しています。風太郎は出版社から原稿を返却されると焼却したため、生原稿はほとんど残っていません。

この小説は、八犬伝の物語を描いた「虚の世界」と、馬琴が八犬伝を執筆する様子を描いた「実の世界」という二つの世界で構成されています。「虚の世界」で風太郎は馬琴の八犬伝を自流に書き改めており、馬琴の原作とは異なる点が存在します。

令和6年10月、風太郎の『八犬伝』を原作とした映画が公開されました。映画も風太郎の原作との違いが見受けられます。原作のある作品のメディア展開には賛否がありますが、『八犬伝』は小説と映画が各々の媒体や時代に合わせて改変・再構築されており、作品の魅力を損なわないような工夫が感じられます。

異なる媒体や時代にに応じたメディア展開が行われることにより、八犬伝の魅力は時代や世代を超え、今に伝わり続けているのでしょうか。



資料紹介

中原淳一に教えてもらった人形作り



中原淳一指導人形

人形作家、挿絵画家、デザイナーなど多方面で活躍した中原淳一(1913~1983)は、多忙な生活で倒れた後、館山市の塩見で療養生活を送りました。

淳一は塩見海岸を散策するなど自然の中で落ち着いた生活をおくりながら健康を取り戻していききました。療養生活中は地元の漁師や

淳一に憧れる少女たちとも交流をしています。滞在先の原家では原千枝子さんと友人の佐野桜子さんが淳一から人形の作り方を学びました。

二人は淳一から「ただ人形を作るだけでなく、モノを大切にする心、身の回りにあるものを生かして使うこと」を教わったそうです。写真の人形の着物は千枝子さんの着物を再利用し、髪は黒く塗ったテープ、髪飾りは水引を使用しました。顔は淳一が描いています。二人が作った人形には外面と内面の両方から美しく生きることを提唱した淳一の精神が込められているといえるでしょう。

当館ではこれまで佐野桜子さんが作成した人形を保管していましたが、このたび、原千枝子さんが作成した人形三体を含む中原淳一関連資料を新しく受け入れました。お預かりする際に、寄付者は「人形たちが博物館で再会して楽しくお話ししているといいわね」とおっしゃっていました。

(山村)

博物館のできごと〈ダイジェスト〉令和6年3月〜令和7年2月

- ◆令和6年3月
 - 9日 博物館分館収蔵資料解説会開催
 - 13日 「よとみ(3・13)の日」に合わせた安房4市町公民館連携講座「見たり・聞いたり安房の国」で学芸員が講師を務める
 - ◆4月
 - 20日 指定管理者事業「南総里見八犬伝浮世絵展」開催(館山城、〜6月23日)
 - 20日 新収蔵資料展「あたらしい資料のご紹介」開催(本館、〜6月23日)
 - ◆5月
 - 18日 テーマ展「唐織の世界」開催(渚の博物館、〜令和7年3月23日)
 - ◆6月
 - 15日 歴史教室「古文書を読んでもみよう」開催(〜令和7年1月、4クラス各8回)
 - ◆7月
 - 20日 収蔵資料展「ちよっと昔の暮らしの道具」開催(本館、〜9月8日)
 - 27日 収蔵資料展解説会開催
 - 28日 図書館・博物館合同事業「なつやすみ宿題大作戦」

- ◆8月
 - 7日 収蔵資料展解説会開催
 - 8日 指定管理者事業「映画『八犬伝』×館山城 映画公開記念パネル展」開催(館山城、〜12月15日)
 - ◆9月
 - 4日 博物館実習実施(〜11日、計6日間)
 - ◆10月
 - 16日 南房総市立富浦中学校職場体験(〜10月17日)
 - ◆11月
 - 1日 初確認の館山城跡絵図



なつやすみ宿題大作戦

開催(1回目、8月18日に2回目開催)

- ◆2月
 - 1日 没後100年記念企画展「資生堂創業者福原有信と館山」開催(本館、〜令和7年3月16日)
 - 1日 指定管理者事業「八犬伝と創作の世界」開催(館山城、〜令和7年3月9日)
 - ◆令和7年1月
 - 1日 指定管理者事業 館山城正月臨時開館(館山城、〜3日)
 - 1日 指定管理者(館山城施設管理・運営、本館受付業務)の契約更新(〜令和11年11月30日)
 - 27日 大掃除
 - ◆令和7年12月
 - 1日 指定管理者(館山城施設管理・運営、本館受付業務)の契約更新(〜令和11年11月30日)
 - 20日 (〜11月21日)
 - 10日 歴史教室「わたしの町の歴史探訪高井・上野原」開催 館山市立中学校職場体験開始
 - 16日 企画展ギャラリートーク開催
 - 13日 博物館協議会開催
 - 11日 企画展関連事業「高校生のための身だしなみとマナー講座」開催(2月24日にも開催)

たてはく 日々コラム ～館山市立博物館(たてはく)の日々のできごとを紹介します～

資料整理の現場から

博物館には、毎年新しい資料が入ってきます。年度によっては40件近く、1,000点以上もの資料を受け入れることもあります。受け入れた資料は、年代や用途などの情報をもとに調書を作成し、清掃・燻蒸(殺虫)を行った後、番号をつけて収蔵庫に収めます。これらの作業を終えて、その資料は「館山市立博物館の収蔵資料」となるのです。

時々「どこにでもありそうなものが展示されている」というご意見をいただくことがありますが、その「どこにでもありそう」なものの、時代の情報を得る上では

立派な「博物館の資料」です。博物館の役割には、古文書や美術品といった珍しいものを展示するだけではなく、「歴史の情報」としてのそれらをきちんと保存・管理し、未来に残していくということもあります。その「情報」を、収蔵庫の限りあるスペースを駆使して、できるだけ良い状態で後世に伝えるため、日々奮闘しています。(山口)

